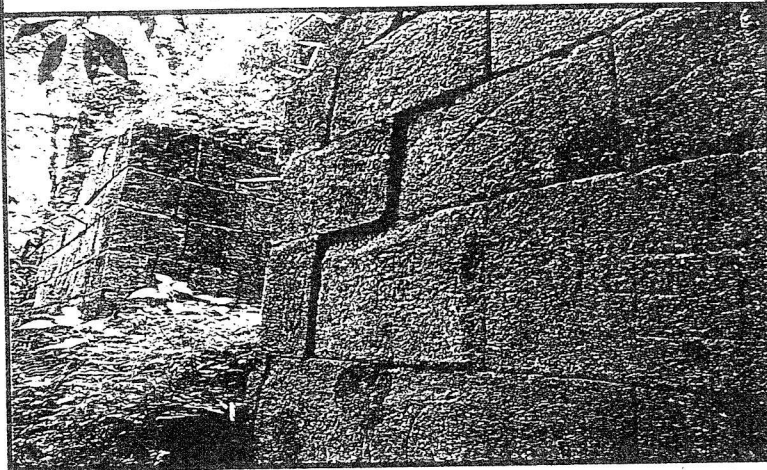


金沢城址整備計画

～石川県のマスタープラン～



石川県は平成8年3月に金沢城跡を国から112億円で取得、一帯を都市公園として利用する都市計画を決定した。金沢城跡と周辺の外濠公園を合わせた28.5㌔を「金沢城址公園」とし、おおむね10年間を目途として整備を進める方針である。このうちすでに散策路整備が進展しており、石川門から本丸園地、三十間長屋を抜け宮守坂を結ぶメインルート約600㌔と、同園地周辺を巡るサブルート500㌔が去る4月下旬に開放されており、県民や観光客らがそぞろ歩きを楽しんでいる。金沢城は県民の手に戻り、城内はいきいきと輝きだした。

六つのゾーンに分けて整備

「Aゾーン」(本丸跡、東の丸跡、

鶴丸跡の一部)「緑」と歴史文化財保全ゾーン」都心部の貴重な自然と歴史文化財の保全ゾーンとして整備する。

●豊かな自然と三十間長屋などの史跡が探訪できる散策コースを中心に整備を行うとともに、乾櫓跡周辺では展望施設などの整備を行う。●本丸跡の樹林内散策路の整備は既存ルートを活用し、散策路周辺や石垣部周辺の下刈りは必要最低限の整備にとどめ、貴重な自然と歴史文化財を保全する。★主な整備内容●本丸園地(散策路・三十間長屋周辺修景・展望休憩コーナーなど整備、鶴丸倉庫・櫓跡・石垣など修復)●新の丸園地(散策路・散策路周辺修景など整備)

「Bゾーン」(二の丸跡「セントラルゾーン」二の丸御殿遺構の保存、活用)に重点を置いた歴史学習空間の整備。●二の丸御殿の遺構調査結果および資料などに基づき、

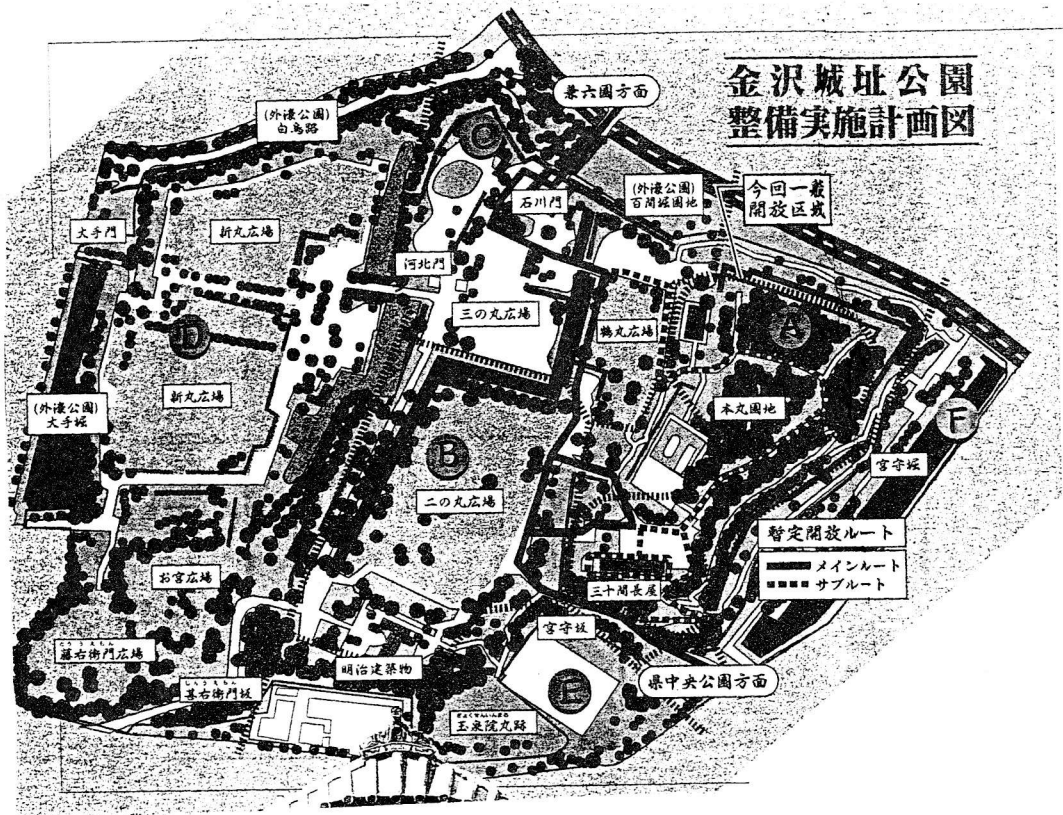
「Cゾーン」(三の丸跡、鶴丸跡、玉泉院丸跡の一部)「セントラルゾーン」●本丸跡に隣接する主要入り口部として整備。●石川門と一体となったエントランス広場として、史実を尊重し、整備する。★主な整備内容●三の丸広場(修景広場・休憩所・トイレ・総合案内コーナーなど整備、内堀・土塀など復元)●鶴丸丸広場(修景広場、トイレなど整備および土塀、門など復元)

「Dゾーン」(新丸跡、藤右衛門丸跡、御宮跡)「自由活動ゾーン」●イベントなどが可能な自由活動ゾーンとして整備。●新丸跡はイベントなど幅広い利用や多様なレクリエーション活動の場として整備する。●御宮跡、藤右衛門丸跡は、管理ヤードとして修景整備する。★学術文化的な施設などの導入については長期的視点で検討する。★主な整備内容●新丸丸広場(多目的広場、芝生広場、湿地植物園、休憩コーナー、トイレなど整備、土塀復元)●藤右衛門丸広場、お宮広場(修景広場整備など)

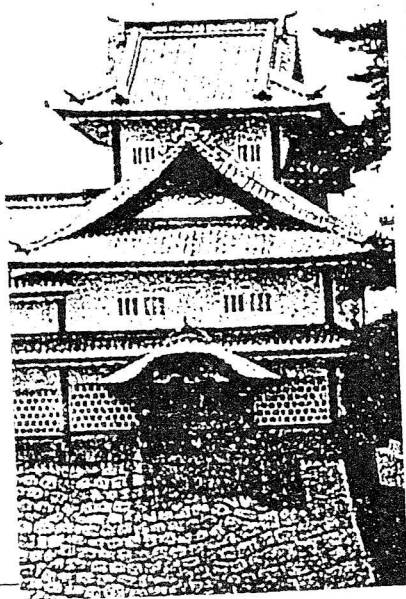
整備に当たっては県の指針は「都心に残された貴重な緑を保全しながら、江戸後期の城郭の地割りを基に、史実を尊重して整備する」(県公園緑地課)こと。ひと言で言えば「本物志向」の整備である。

今後の計画で「一里塚」となるのが、十年間の整備計画期間の折り返し点となる平成十三年だ。この年の秋、金沢城址公園を主会場に「全国都市緑化いしかわフェア」仮称が開催される。同フェア開催に協賛を合わせ、いしかわの計画が盛り込まれている。

それは、①現在の県兼六園二ニスコートを移転させ、水をたたえた宮守堀を復元させる②二の丸跡に菱櫓を夜明けを飾る手はずである。



「Eゾーン」(玉泉院丸跡)「庭園ゾーン」玉泉院丸園地の整備●金沢城の内庭である玉泉院丸庭園遺構の復元を念頭において園地整備する。★主な整備内容●玉泉院丸園地(修景園地など整備)「Fゾーン」(宮守堀)「外周ゾーン」金沢城址の外周部にふさわしい整備●宮守堀の遺構調査をふまえて復元する。★主な整備内容●宮守堀修景園地(宮守堀復元、修景園地など整備)



二の丸守った美しい菱櫓

県が復元を検討する菱櫓は、城内のほぼ中央、二の丸の東北にあった二層三階建ての建物。二の丸の正門である橋爪門から続く五十間長屋の先の一角にあった。石川門と同様に白壁やなまこ塀が内堀の水面に映え、風情も格別だったが、明治十四年の火災で焼失した。

菱櫓の絵図が県立歴史博物館にあるほか、古文書も金沢市玉川図書館に保存されている。復元への史料には比較的新しいものがあるが、焼失から一世紀以上を経ての復元に、関係者から大きな期待が寄せられて

笹田 竜之 文

金沢市暁町18-21 上田アパート201号

232-8081

愛知県稲沢市小沢3-14-3

0587-32-0268

志賀 寛人 工

金沢市石引2-9-17 小立野台ハイム3-B

232-9728

奈良県高畑市 835

0742-23-0120

角谷 誠 工

金沢市鈴見町7街区9番地 館クセス

262-5879

愛知県西尾市上町泡原37-6

津田 俊平 教育

金沢市東兼六町11-21 茨木ハイツ202

222-8120

愛知県名古屋市区金城4-5-9

052-914-1722

矢内 祐一 工

金沢市石引2-27-3 桂荘202

222-8908

岡山県苫田郡鏡野町竹田193

0868-54-2433

主将の挨拶と部の近況

40期 山崎 茂雄



「なんで山に登るの？」

と人に聞かれると、すごい困ってしまう。はっきり言って返す言葉がない。

確かにこの二年間で山を身近に感じられるようになり、何も知らなかった入部当時に比べれば、多少なりとも山に対する知識は蓄えられた気がするし、山の良さも分かるようになった気がする。でも、それを人に伝えたり、教えたりすることがなかなかできない。それは、自分の中にどこか山を嫌っている部分を持ち合わせているからかも知れない。

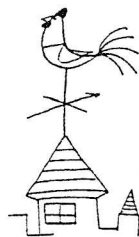
そんな人間がこの部の主将を務めることなど荷が重過ぎ、本来あるべき主将の姿とのギャップにもがきながら過ごしている毎日である。これから先、自分がどれほど山に登るかは分からないが、その中で少しでも自分にプラスになる

ものを見つけ、この部の経験を生かせたら、いつか山の素晴らしさを表現できる人間になれる気がする。そして、そうなった時初めて、この部の主将の重さを感じ取れるのではないだろうか。

さて、部の近況ですが、新入生は10名入り、例年どおりの数となった。新入生トレーニング山行は、昨年の医王山から高三郎に戻し、5月31日から6月2日にかけて行った。天候に恵まれ頂上まで行ったものの、前高三郎から高三郎までの道はなかなか厳しかった。また、虫の多さには閉口した。

現在の活動状況としては、夏合宿に向け、学校の回りを走ったり、サッカーをしたりしての体力維持・向上に努めている。

- * 冬合宿偵察 荒島岳 12/7~8
L 西田 SL 小泉 小西 岩倉 川本 阪本 後藤 上田
- * 冬合宿 荒島岳 12/25~28
CL 西田 CSL 小泉
- * 医王山雪上訓練山行 2/23~24
L 佐川 SL 金吉 三浦 市山 竹内 得田
- * 犀奥PW 2/28~3/6
L 佐川 SL 山本 三浦 上田 小川
- * 春合宿偵察 唐松岳 3/10~11
L 小西 SL 岩倉 川本 阪本 西田 上田 金吉
- * 春合宿 唐松岳 3/17~20
CL 小西 CSL 岩倉 (4年1名 3年4名 2年3名 1年5名)
- * 1. 2年山行
 - < 京都 3/10~12 >
L 村井 SL 小川 前川 森田 長谷川
 - < 高尾山・吉次山 3/29~30 >
L 中野 SL 上田 山崎 田村 谷本 得田 竹内
 - < 武奈ヶ嶽 >
L 高岩 SL 掛布 加藤 林 市山 佐藤 河村

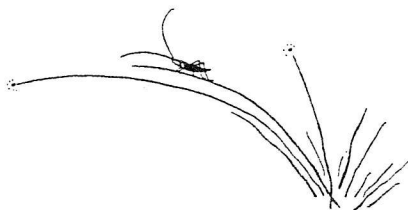


97年度

- * 雪上訓練 白山 5/3~5
L 上田 SL 金吉 佐川 小川 市山 佐藤 竹内 河村 森田
- * 新トレ偵察 高三郎 5/10~11
L 前川 SL 小川 (3年6名 2年9名)
- * 新トレ 高三郎 5/31~6/2
CL 前川 CSL 小川 (4年3名 3年7名 2年9名 1年11名)
- 夏合宿
- * ハヶ岳パーティー 6泊7日 8月上旬
L 小川 SL 高岩 市山 佐藤 青木 矢内
 - 蓼科山ー大岳ー横岳ー東天狗岳ー西天狗岳ー根石岳ー硫黄岳
 - ー赤岳ー編笠山ー観音平
- ・ 第一回トレーニング山行 大日山 6/28~29
L 小川 SL 高岩 佐藤 青木 矢内 傍島
- ・ 第二回トレーニング山行 白山 7/4~6
L 佐藤 SL 小川 高岩 青木 矢内
(交通事故により中止)
- * 北アルプスパーティー 7泊8日 8/2~10
L 上田 SL 村井 林 竹内 川俣 志賀
 - 立山室堂ー雷鳥平ー雄山ー五色ヶ原ー越中沢岳ー薬師岳ー祖父岳
 - ー三俣蓮華岳ー双六岳ー槍ヶ岳ー新穂高温泉
- ・ 第一回トレーニング山行 白山 7/5~6
L 林 SL 上田 村井 竹内 川俣 志賀
- * 南アルプス北上パーティー 8泊9日 8/1~9
L 中野 SL 山崎 田村 河村 谷本 笹田 津田 久保寺
 - 塩川小屋ー三伏峠ー塩見岳ー北荒川岳ー農鳥岳ー間ノ岳ー北岳
 - ー仙丈ー北沢峠ー甲斐駒ヶ岳
- ・ 第一回トレーニング山行 口三方岳 6/21~22
L 山崎 SL 中野 上田 田村 河村 谷本 長谷川 竹内 笹田 津田 久保寺
- ・ 第二回トレーニング山行 白山 7/5~6
L 田村 SL 中野 山崎 河村 谷本 笹田 津田 久保寺
- * 南アルプス南下パーティー 8泊9日 8/3~11
L 掛布 SL 前川 長谷川 森田 得田 角谷 岩崎

北沢峠＝甲斐駒ヶ岳－仙丈－北岳－間ノ岳＝農鳥岳－北荒川岳
－塩見岳－三伏峠－塩川小屋

- ・ 第一回トレーニング山行 口三方岳 6/28~29
 し 前川 SL掛布 森田 得田 林 角谷 岩崎 石川 川俣 志賀
- ・ 第二回トレーニング山行 白山 7/19~20
 し 得田 SL前川 長谷川 佐藤 野沢 石川 矢内



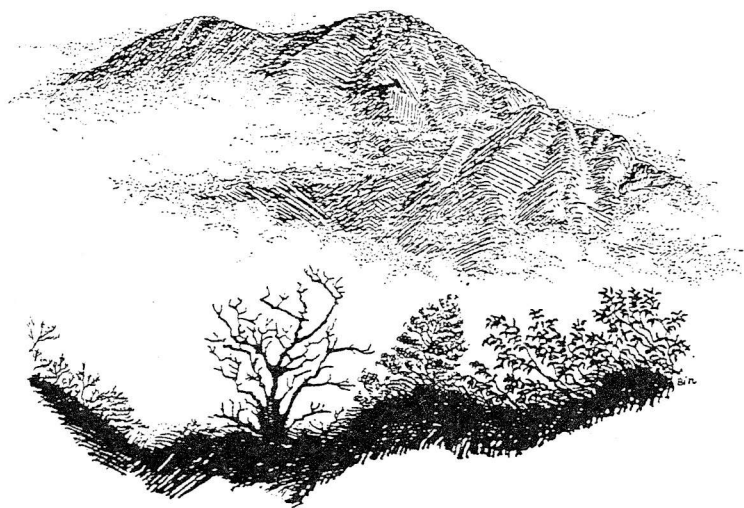
編集後記

ノロノロ台風の御蔭で（被災された方々へは心よりお見舞い申し上げます）夏山は散々。控えにおいておいた雨飾山の往復でお茶を濁すことになりました。同行者達は思わぬ温泉泊まりに「こんな山行きの方が滑休みになるわ」と満足そう。

その小谷温泉山田旅館で、深田久弥のビデオを見せてもらうことができました。雨飾山に同行した友人医師が、当時の1年分の給料をはたいて買ったカラー8mmで映したものをビデオに編集しなおしプレゼントしてくれたもの。おそらく久弥の山のカラービデオはこれだけだろうといういわくつきでした。

にじんだような色ながら、当時の8mmはどんなに重かったものか…。画面に妙齢の婦人が映っています。道のない山へ同行するような方は、日本山岳会の某といったあたりなのかと思ったら、奥様でした。頂上の石仏の前で揃ってお弁当を広げている姿は今を時めく中高年登山者夫婦そのもののほほえましさ…。

百名山の雨飾山の項には、恋こがれてやっと3度目に登頂できたとは書いてあるけれど、夫人同伴で楽しんだことなど一言も書かれてはいません。当たり前過ぎることだったのか、文学に家庭の匂いは入れたくなかったのか…「私たち」の表現に今はかすかにShyを感じつつ、読み直しています。



OB会報「やまざと」

97夏号
(7号)

発行日 平成9年8月

発行者 大島 良治

金沢大学フンダーフォーゲル部OB会

編集責任者 舟田 節子

事務局 金沢市橋場町10-49

印刷 中川 晃成

☎076-222-9288